



2020 年度 日系社会次世代育成研修
(高校生・大学生招へいプログラム)
オンライン移住学習 報告書

2020 年 12 月 18 日～2021 年 2 月 5 日

2021 年 3 月

独立行政法人国際協力機構(JICA)中南米部

公益社団法人青年海外協力協会



目次

I 日系社会次世代育成研修(高校生・大学生招へいプログラム)概要	1
II 研修員(国名・所属先)	5
III プログラム日程	7
IV プログラム内容	9
V 研修員からひとこと	21
VI 総評	36

【参考】添付資料(募集要項、応募要項)

I 日系社会次世代育成研修(高校生・大学生招へいプログラム)概要

1. 研修の目的

中南米の日系社会では世代交代が進み、2世、3世以降が今後の日系社会を担う存在と なっています。本研修は今後の日系社会を担う世代に対する研修を通して日本との関係強化 や移住先社会の発展に貢献できる人物を育成することを目的としています。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、本邦研修からオンラインでの移住学 習に切り替え実施しました。本研修では、将来の日系社会をリードする発信力のある人材を育 成するとともに、日本人の海外移住の歴史に関する学習や日本の高校生および大学生との交 流を通じて、自らのルーツと日本に対する理解を深め、さらに日系人としてのアイデンティティを 強化することを狙いとしています。

2. 研修期間

2020年12月18日(金)～2021年2月5日(金)

3. 研修員内訳

高校生研修員

(1)人数:10名

(2)出身国:メキシコ(2名)、ドミニカ共和国(1名)、ボリビア(3名)、ペルー(3名)、
ブラジル(1名)

大学生研修員

(1)人数:24名

(2)出身国:メキシコ(3名)、パラグアイ(3名)、ボリビア(3名)、ペルー(3名)、
ブラジル(11名)、アルゼンチン(1名)

4. 研修概要

カテゴリー	目的	講義等
移住学習	・事例を基に日系人としてのアイデンティティを考察する	日系人とアイデンティティ
	・日系人の可能性や社会貢献の方法を考える	日系人のポテンシャル
	・日本人の海外移住の歴史や背景を学び、理解を深める	日本人の海外移住の歴史
日本の高校生との交流	・日本の高校生と交流し、日本の高校生活や日本文化を理解する	日本の高校生との交流
日本の大学生との交流	・「日本と中南米の国についての紹介」をテーマにグループでの準備に取り組み、その発表を通して互いの国の文化や価値観を共有し、理解する	日本の大学生との交流
その他	・日本へ留学するための情報を得る	先輩方の体験談
	・留学生の卒業後の目標を聞き、自身の進路の参考にする	(日系人留学生 OB・OG)
	・本邦研修を受講した高校生および大学生研修員 OB・OG から研修の心構えや準備を聞き、本邦研修が再開されたときの参考にする	先輩方の体験談 (高校生・大学生 OB・OG)
	・同世代の中南米の日系人との横の繋がりを作る	

5. 各カテゴリーの実施について

(1) 移住学習

移住学習では、本研修全体の目標達成のためテーマを3つ設けました。3つのテーマとは、「日系人のアイデンティティ」、「日系人のポテンシャル」、「日本人の海外移住の歴史」です。リアルタイムでの受講、または録画講義を視聴した後、学んだことをもとにディスカッションの機会を設けました。ディスカッションは、中南米地域の各国から集まった研修員同士で意見交換することにより他国の日系社会を知り、自身が置かれている環境や価値観についても共有しながら講義内容の理解を深めました。研修修了後、日系人としての誇りを持ち、研修員ひとりひとりが持つ可能性を広げ、日系社会へ貢献できるようなプログラムを実施しました。

(2) 日本の高校生および大学生との交流

本邦研修、高校生招へいプログラムでは神奈川県にある高校を訪問し、日本の高校生と交流しながら体験入学を行い、日本の高校生の自宅へホームステイをしています。また、大学生招へいプログラムでは東京都内および神奈川県にある大学を訪問し、1日体験入学および研修員の専攻分野の学部や研究室を訪れ、研修を受けています。今年度も本邦研修が中止となったため、それに代わる交流プログラムをオンラインで行いました。

日本の高校生との交流では、広島県立加計高等学校の1・2年生が研修員に日本の食文化や行事、昔話をパワーポイントや劇で紹介をしました。それを受けて、互いの国の行事について質疑応答をし、意見交換を行いました。

また、日本の大学生との交流では、横浜国立大学の学生と研修員が5つのグループに分かれ、国や言語が違う人たちとコミュニケーションを図りながら、各グループで決めたテーマについて発表し、互いの国の文化や価値観における共通点および相違点を知り、理解するグループワークを行いました。

(3)その他

先輩方の体験談として、現在、日本へ留学中の日系人の留学生にコロナ禍での留学生活や今後の目標について、話を聞きました。

また、本邦研修を受けた研修員 OB・OG から研修で得られたことや、帰国後、どのように日系社会で活動しているかを聞き、本邦研修が再開された際、自分が研修で習得したいことは何か、帰国後、自分はどのように日系社会と関り、活動していくか等、参考にしました。

Ⅱ. 研修員(国名・所属先)

高校生

No.	国	参加者数	所属学校名
H1	メキシコ	2	日本メキシコ学院
H2			国立高等学校
H3	ドミニカ共和国	1	Josbet クリスチャン・カレッジ
H4	ボリビア	3	コレヒオ・サン・アグスティン
H5			コレヒオ・ドミンゴ・サビオ
H6			コレヒオ・アレクサンダー・ヴォン・フンボルト
H7	ペルー	3	ラ・ユニオン日系校
H8			マリア・レイナ・マリアニスタ校
H9			ピラール・ド・スール日本語学校
H10	ブラジル	1	ピラール・ド・スール日本語学校

大学生

No.	国	参加者数	所属学校名
U1	メキシコ	3	モンテレイ工業大学
U2			グアダラハラ大学
U3			ラ・サール大学
U4	パラグアイ	3	アスンシオンカトリック大学
U5			アメリカナ大学
U6	ボリビア	3	カトリカ大学
U7			ヌル大学
U8			ウディ大学
U9	ペルー	3	私立リマ大学
U10			ペルー応用科学大学
U11			私立リマ大学
U12	ブラジル	11	サンカルロス連邦大学
U13			モジダスクルーゼス大学
U14			マッケンジ大学
U15			サンパウロ大学
U16			ロンドニア連邦大学
U17			ソロカバ大学
U18			マッケンジ大学
U19			ブラジリア大学
U20			パラナ連邦技術大学
U21			リオデジャネイロ連邦大学
U22			UNICEUB 大学
U23	アルゼンチン	1	国立技術大学

Ⅲ. プログラム日程

高校生

	実施日	時間	内容
	2020年		
	12月 9日	9:00-10:00	オリエンテーション
	12月 18日	8:20- 8:30	JICA 挨拶
1	12月 18日	8:30- 9:30	【講義①】日系人とアイデンティティ
2	12月 21日	8:30- 9:30	【ディスカッション】日系人とアイデンティティ
3	2021年 1月 5日 ~ 1月 11日	★	【講義②】日系人のポテンシャル
4	1月 8日 ~ 1月 14日	★	【講義③】日系人のポテンシャル
5	1月 15日 ~ 1月 21日	★	【講義④】日本人の海外移住の歴史
6	1月 19日	8:00- 9:00	【ディスカッション】日系人のポテンシャル
7	1月 26日 ~ 2月 1日	★	先輩方の体験談(日系人留学生)
8	1月 27日	8:45- 9:45	日本の高校生との交流
9	2月 2日	9:00-10:00	先輩方の体験談(高校生研修員 OB・OG)

* プログラム実施日時は日本時間(午前)で行いました。

* ★は録画講義・配信で行いました。

大学生

	実施日	時間	内容
	2020年		
	12月9日	9:00-10:00	オリエンテーション
	12月18日	8:20- 8:30	JICA 挨拶
1	12月18日	8:30- 9:30	【講義①】日系人とアイデンティティ
2	12月22日	8:30- 9:30	【ディスカッション】日系人とアイデンティティ
3	12月23日	8:00- 9:30	【事前準備】日本の大学生との交流
4	2021年		
	1月5日～ 1月11日	★	【講義②】日系人のポテンシャル
5	1月8日～ 1月14日	★	【講義③】日系人のポテンシャル
6	1月15日～ 1月21日	★	【講義④】日本人の海外移住の歴史
7	1月18日	8:00-10:00	【プレゼンテーション準備】日本の大学生との交流①
8	1月22日	8:00- 9:00	【ディスカッション】日系人のポテンシャル
9	1月25日	8:00-10:00	【プレゼンテーション】日本の大学生との交流②
10	1月26日～ 2月1日	★	先輩方の体験談(日系人留学生)
11	2月5日	9:00-10:00	先輩方の体験談(大学生研修員 OB・OG)

* プログラム実施日時は日本時間(午前)で行いました。

* ★は録画講義・配信で行いました。

IV. プログラム内容

2020/12/9 オリエンテーション（高校生・大学生）

オンライン移住学習開始前に、オンライン会議システムの使用方法、オンライン移住学習の受講方法を確認しました。

12/18 オンライン移住学習開始 JICA 挨拶（高校生・大学生）

JICA 横浜 殿川次長による挨拶がありました。「ライブ講義の日は中南米の夜に実施されるが、講義を通して移住の歴史やアイデンティティについて理解を深めてほしい。また、日本の同世代の大学生との交流の中で新しい発見があると思うので、他の研修員と協力しながら、ぜひ積極的に参加してください」と激励を受け、研修員たちは少し緊張しながらも、今日から始まる研修や新しい仲間との出会いに期待を寄せていました。

12/18 【講義①】 日系人とアイデンティティ（高校生・大学生）

都内の大学で社会学部メディア社会学科教授をされているブラジル出身の日系人（自己紹介では「在日ブラジル人一世」、「東京人」と表現されています。）を講師に迎え、アイデンティティに関する講義を行いました。この講義では、テニスプレーヤーの大坂なおみ選手やブラジルの歌手、ジョー・ヒラタ氏を事例に取り上げ、「アイデンティティ」や「日系人」とは何かを考察しました。また、世界の日系人の意識調査の回答を基にしたデータの分析や、在日日系人の被災地での支援活動等を例に、日本に住む日系人たちが「日本社会の一員」としての意識（＝アイデンティティ）をもち、活動していることを学びました。

講義を受ける前まで、研修員の多くは「自国では『日本人』と呼ばれ、日本人のような振る舞いをするように期待されることが多いが、実際には自国の習慣や文化も持ち合わせている。自分は何人なのだろうか？」と自問自答していましたが、講義後、「自分を表現するアイデンティティはひとつではなく、同じ人でも状況によって生涯でアイデンティティは変わると分かり、驚いた。」「アイデンティティは複数あってよいと知り、ほっとした。」等のコメントがあり、これまでの悩みが解消されるヒントを得ることで、研修員の表情が少し明るくなったように見受けられました。

12/22【ディスカッション】日系人とアイデンティティ（大学生）



高校生のディスカッション同様、アイデンティティに関する4つの質問が宿題として出され、研修員24名を4つのグループに分け、グループ発表を実施しました。

研修員が「日系人」としてアイデンティティを実感した時期は人それぞれですが、家族から日本について話を聞いたり、子供の頃から家庭内で日本語のあいさつや習慣を取り入れていたりすることで、自身が「日系人」であることを強く認識するようになったと話していました。中には、大学へ進学し、家族には通じる言葉が友人に通じなかったとき、友人と自分のルーツが違うことに気付いたと話す研修員もあり、日系人以外の人との出会いによって自身のアイデンティティを自覚したというエピソードを共有する研修員もいました。

この講義で自身のアイデンティティについて考え、他国の研修員と意見交換することで、「自国ではマイノリティだけど、この研修では自分同様、日系人の青年が集まり、同じように日本に興味をもっている人が大勢いる。他の日系人と話すと共感できることが多く、話をしていて楽しい」、「日系社会の行事と一緒に参加している現地の人たち(非日系)も、日本にルーツがなくても日本が大好きで、日本文化を大切にすれば誰でも日系人の仲間、『*Newkei』だと言えることが分かり、ほっとした。」等、新たな気付きを得たことが分かりました。また、多くの研修員たちから講師や他の研修員と話をすればするほど、日系人であることの意味を知りたいという気持ちがより強まったという意見も出ました。

* Newkei…日系ブラジル人のリーダー的存在である方が生み出した言葉。日本のルーツがあるか否かを問わず、日本に対して愛着を持つ人を指す言葉として提唱されています。



12/23 【事前準備】 日本の大学生との交流（大学生）



横浜国立大学の学生と交流を図りながら、1月に行われるグループ発表の事前準備を行いました。横浜国立大学の学生が所属するゼミでは、これまでにスタディー・ツアーでパラグアイやブラジル、ボリビアへ渡航し国際理解の実践に取り組んでいるため、研修員の国や国民性について関心を寄せています。

アイスブレイクで緊張をほぐした後、学生と研修員が5つのグループに分かれ、互いの国の文化や価値観を知るための発表を行う準備をしました。発表のテーマは、「食文化」、「各国の年末年始の過ごし方」、「観光旅行」となり、グループ毎に発表内容や役割分担を決め、作業工程を確認しました。

2021/1/ 5～1/11 【講義②】 日系人のポテンシャル（高校生・大学生）

1/ 8～1/14 【講義③】 日系人のポテンシャル（高校生・大学生）



JICA 日系社会研修や関東・中部エリアの大学で法律や語学の講師、NHK の放送通訳を務め、中南米をはじめ日系社会に精通している日系人の講師を迎え、日系人がもつポテンシャルについて、そして、新型コロナウイルスが拡大している中、どのように家族や社会を守るのかを録画講義にて学びました。

講義を受け、高校生からは、「私たち日系人がもつ、団結力、真面目さ等は、自国のために役立てることができると思った。」、「日系人のポテンシャルは国によって異なるかが気になった。」というコメントがありました。

また、大学生からは、「移住地に住んでいるが、同じ日系人で、日本の文化や習慣をもたない人たちへポテンシャルを感じさせるにはどうしたらよいか。」、「中南米と日本の関係をより強めるために、自身の日系人としてのポテンシャルをどのように活かしたらよいか。」といった質問があり、次回のディスカッションで話し合うことになりました。

1/15～ 1/21 【講義④】日本人の海外移住の歴史 海外移住資料館と日系人

(高校生・大学生)



JICA 横浜にある海外移住資料館学芸担当者による録画講義で、戦前・戦後の日本人の海外移住の歴史と日系人について学びました。研修員たちは「家族から移住についての話を聞いていたが、自国以外の中南米やハワイへも移住していたことは知らなかった。講義後も日本人の移住について詳しく学びたい。」「パンデミックが終わったら自国や近隣国の移住資料館へ足を運びたい。」と感想を述べていました。

中には、「研修前は、互いの言葉が分からないため祖父母とコミュニケーションを取ることができないと思い、家族の移住の歴史について直接聞くことができなかった。だが、この講義を受けたことで祖先に対する感謝の気持ちが強まり、祖父母に家族の移住の歴史について聞いてみようと思った。」という研修員もあり、研修が進むにつれて自身のルーツやアイデンティティに関心を強めていく姿が見受けられました。

1/18 日本の大学生との交流①



12月に横浜国立大学の学生とミーティングを開いてから交流実施当日まで、クリスマス休暇や年末年始を挟み、1か月が経過しました。その間、各グループ、作業計画や役割分担を決め、休日中でもSNSで連絡を取り合いながら各自作業を進めました。始めは時差があること、また言語が違うことからうまくコミュニケーションを図れるか心配していましたが、連絡を重ねることで次第に打ち解けていったと喜んでいました。

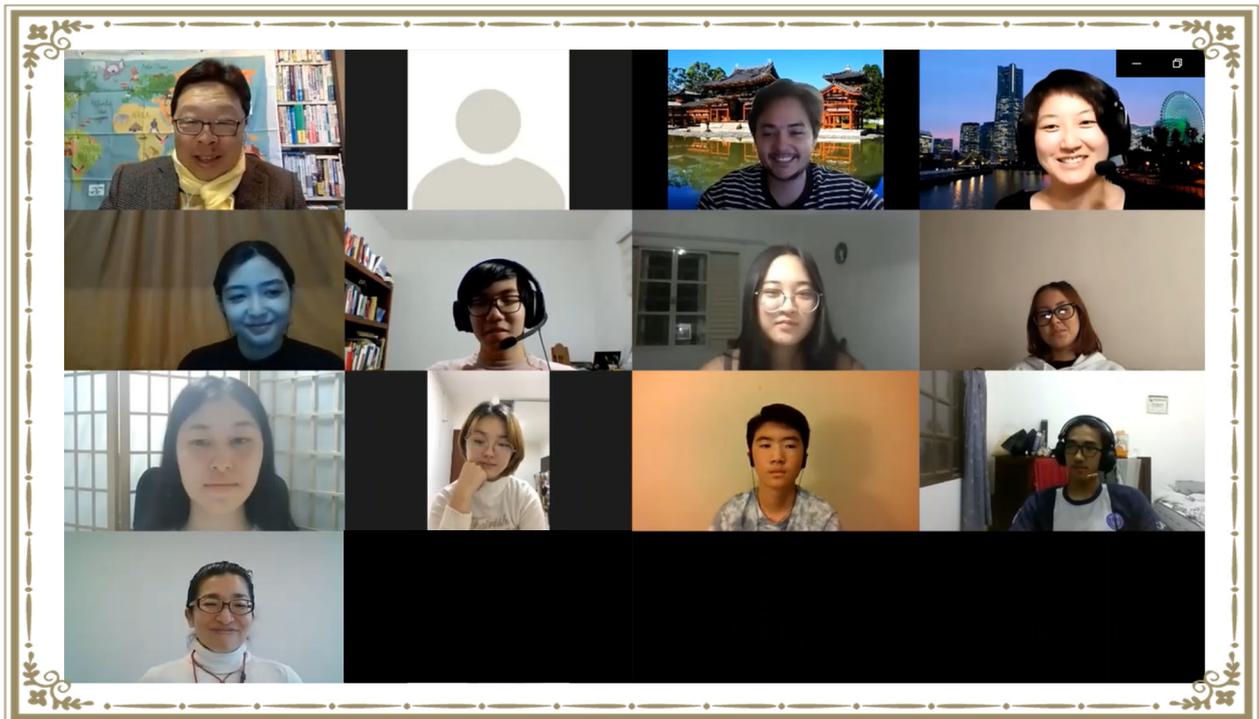
今回の交流では、グループ毎に各自の進捗状況と、次回の発表に向けての準備およびリハーサルを行いました。

1/19 【ディスカッション】日系人のポテンシャル（高校生）

【講義②・③】日系人のポテンシャルを受講後、高校生研修員に対し、講師が質疑応答を行いました。日系人のポテンシャルは国によって違うかという質問に対し、講師から、「中南米に暮らす日系人は共通点もあるが、居住国の社会状況によってはポテンシャルが違ってくる。自分が住んでいる国や社会で、日系人として何を必要とされているのかを考えるとよい。」という回答を得て、自分は何ができるかを真剣に考える様子が見られました。

研修員たちは、「講義やディスカッションを行うまで、日系人のメリットは日本語を学んだり、日本文化を受け継いだりすることで日本との繋がりを感ずることだと思っていたが、日本の文化をはじめ、中南米の文化や習慣をもち合わせていることもメリットであり、日系人のポテンシャルになることに気付いた。」と話していました。また、他国の研修員と意見交換をし、このテーマについて話し合うことで、「これまで考えたことのない新たな可能性を感じ、日系人がどれほど素晴らしいかが分かった。」と誇りに思う姿が多く見られました。

また、言語サポーターとして、高校生招へいプログラム引率者の経験があり、現在、日本の大学院へ留学している日系人と、大学生招へいプログラム OG で帰国後、地域の日系社会で活動している日系人の二名の先輩方から、研修時の日本の経験や印象を聞いたり、留学についてのアドバイスを受たりし、自身の可能性や進路を見つめなおす時間となりました。



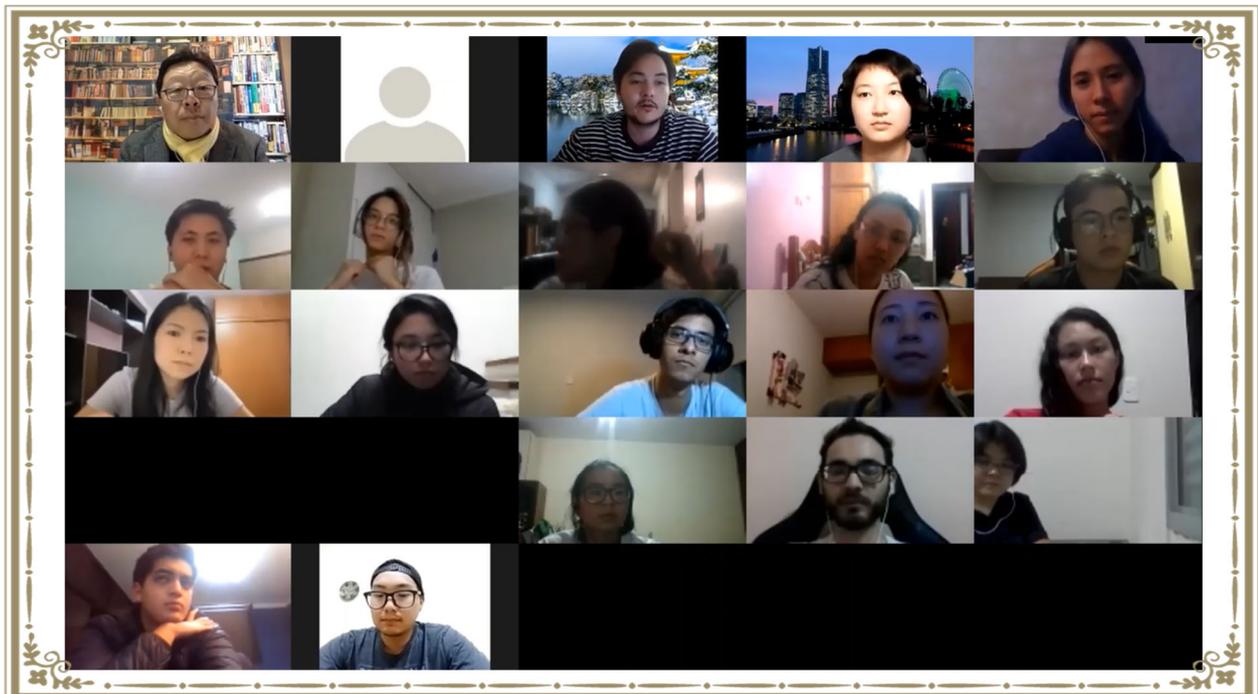
1/22 【ディスカッション】日系人のポテンシャル（大学生）

【講義②・③】日系人のポテンシャルを受講後、大学生研修員に対し、講師が質疑応答を行いました。同じ日系人で、日本の文化や習慣をもたない人たちへポテンシャルを感じさせるためにはどうしたらよいかという質問に対し、「私たちが今いるのは、祖先の努力と教育を与えてくれたから。この研修でみなさんが学んだ移住の歴史や祖先の努力、日系人としての可能性について、ぜひ、周囲の日系人へ伝えることから始めてみて。」と回答がありました。

また、前回の講義であがっていた「中南米と日本の関係をより強めるために、自身の日系人としてのポテンシャルをどのように活かしたらよいか。」という質問に対しては、「自動車用バッテリーに使われているリチウム等の鉱物資源をはじめ、中南米諸国から日本へ輸出している資源がたくさんあり、例を挙げると、パラグアイの日系社会からはゴマを輸出している。大学でビジネスを専攻し、起業して、貿易等で中南米と日本のビジネスに関わることもできる。」と回答を受け、日系人として誇りに思う気持ちが強まり、自身ももつ可能性の大きさを感じたようでした。

研修員たちは、「これまで自身がもっていた日系人のイメージが変わった。日系人は両方の文化の最良のものを持ち合わせており、それを周りの人たちのために使うことができることに気づき、視野が広がった。」と話していました。

最後に講義の言語サポーターとして参加した日系人の先輩から、「現在、新型コロナウイルスの影響で活動範囲に制限が出ているが、自分ができるところから始めよう。新しいことに取り組むには勇気があるし、最初は難しく感じることも、だんだん上手にできるようになり、それが自分の自信に繋がる。」とメッセージを受け、改めて自分の目標に向けて頑張ろうと勇気づけられる姿が見受けられました。



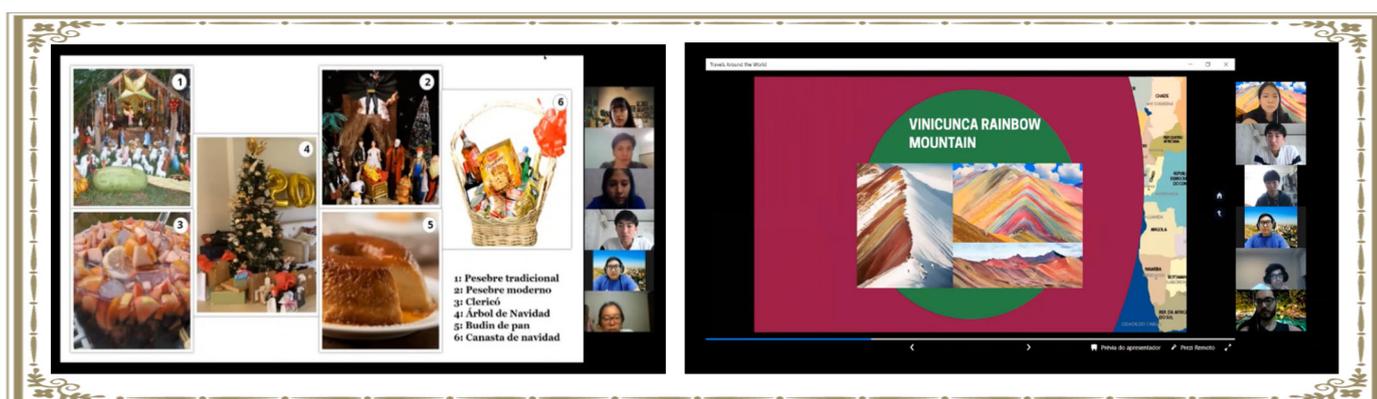
1/25 日本の大学生との交流②



12月から準備してきたグループワークの成果を、横浜国立大学の学生と研修員が5つのグループに分かれ、他国の文化や価値観に触れ、理解を深めるため、各国の行事とその伝統料理や自国の観光スポットを発表しました。例えば、ひとつのグループは「山田さんの旅行」と題して、グループメンバーの移住国である日本、メキシコ、ペルーの観光地や動物、食文化を写真とバーチャル地球儀を使いながら発表を行いました。どのグループも画像や映像を取り入れる等の工夫をこらしており、参加者は楽しみながら耳を傾けていました。

交流を終え、研修員たちは、「どの発表も素晴らしかった。それぞれが違う場所にいるはずなのに、まるで同じ場所で行っているかのような一体感があった。」と学生と共に喜ぶ姿が見受けられました。そして、「自国と日本、または他の中南米との文化や価値観の違いだけではなく、共通点も発見できた。」「日本から自国へ移住してきた人たちが伝える日本の行事を、他国の日系社会でも受け継いでいることを知り、とても嬉しく思った。」と話し、研修員は各国の特徴を興味深く観察し、様々な気づきや学びを得ることができました。

事前打ち合わせの際、遠隔で学生や他国の研修員とコミュニケーションが取れるか心配をしている様子がありましたが、すぐに打ち解けることができました。発表を終えた研修員と学生の表情は達成感に溢れ、互いにとって有意義な時間となりました。研修が修了した今も、学生や研修員と交流を深め、各国や大学生活について情報交換を行っている喜びの報告を受けています。



1/26~2/01 先輩方の体験談(日系人留学生)



現在、日本の各大学で勉強をしている日系人の留学生7名から日本の留学生活についての体験談を聞きました。様々な留学先の中から日本の大学院へ留学を決めた理由や、日本の大学院の研究室の様子、留学生活や日本の暮らしで戸惑ったこと、また、どのように改善していったか等、話を聞きました。

研修員たちからは、「JICA 日系社会リーダー育成事業で日系人が日本へ留学するチャンスがあること、新型コロナウイルス感染拡大後、オンラインでの講義が続いていたが、現在は少しずつ研究室での実験が再開したこと、留学前は日本語がほとんど話せなかったが、大学で日本語の授業を受け、生活の中で実践していくうちに少しずつ話せるようになり、自信がつくと共に日本の留学生活や日常生活に慣れていった等、リアルな体験を聞くことは非常に興味深く、今後、日本への留学を考える上での参考になった。」と感想が寄せられました。また「多くの留学生の方が話していた『日本への留学前は不安が大きかったけれども、すぐに馴染むことができ、今は充実した留学生活を送っている。』、『言葉や文化、習慣の違い、家族や友人と離れることを恐れて挑戦をやめるのはもったいないこと。ぜひ、目標に向かってがんばって!』というアドバイスにとっても勇気づけられた。」、「日系人留学生の話聞くことで、新たな選択肢が生まれました。」という感想が多数ありました。

The image shows a decorative frame containing three main elements:

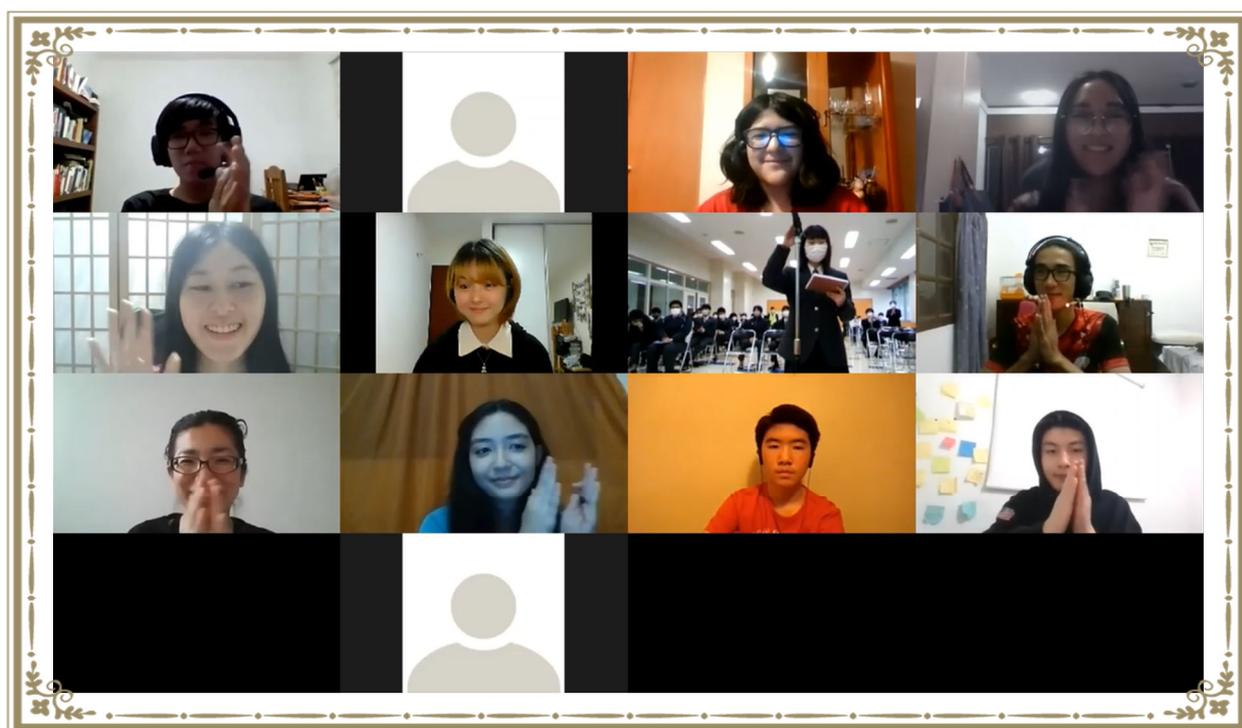
- Slide (Left):** A presentation slide with a blue and white background. The text includes:
 - 2020年度 JICA日系社会次世代育成研修 (高校生・大学生招へいプログラム) オンライン移住学習
 - FY2020 JICA Education Program for Nikkei Next Generation (High-school and University Students) Online Migration Program
 - 先輩方の体験談(日系人留学生)
 - Experiences of your seniors (Nikkei students in Japanese universities)
- Photo (Middle):** A photograph of a young woman in an orange shirt sitting at a desk in a computer lab, working on a laptop.
- Logo (Right):** A yellow rectangular logo with the text "UNIVERSITY" and "HEALTH & BEHAVIORAL SCIENCES LAB" below it.

1/27 日本の高校生との交流



広島県立加計高等学校の1・2年生と研修員が、オンラインで交流をしました。加計高等学校がある加計町からはブラジルへ移住した人が多数いたことから、校庭にはブラジル移住の記念碑が建てられており、日頃から国際交流が盛んに行われています。これまでも本プログラムの研修員と交流を行ってきました。

加計高等学校の工藤校長より、「研修員の皆さんの先祖は夢と希望を抱き、勇気をもって世界へ羽ばたかれました。その勇気に敬意を表するとともに、皆さんと交流できることを嬉しく思います。今回の交流で日本への理解を深め、互いの成長になることを願っています。」と挨拶があり、参加した生徒がパワーポイントや劇を用いて、天麩羅や節分(豆まき・恵方巻)、日本のアニメ、浦島太郎の劇といった日本文化を楽しく、分かりやすく紹介してくれました。交流では、生徒から研修員へ中南米の行事について、研修員から生徒へは日本のアニメについての質問がありました。メキシコの研修員が独立記念日とそのお祝いについて説明すると、日本には無い記念日の過ごし方に、生徒は驚いていました。一方、研修員たちは、2020年度は自国の高校へ通えず、全てオンライン授業に切り替わっているため、「日本の高校生たちが通学し、大教室に集まっていることにとっても驚いた。」と話すと同時に、講義③日系人のポテンシャルで学んだ「マスク着用やソーシャルディスタンスを取る」といった、日本の新型コロナウイルスの対策について、実際に高校生も徹底して実行していることを知り、感心していました。



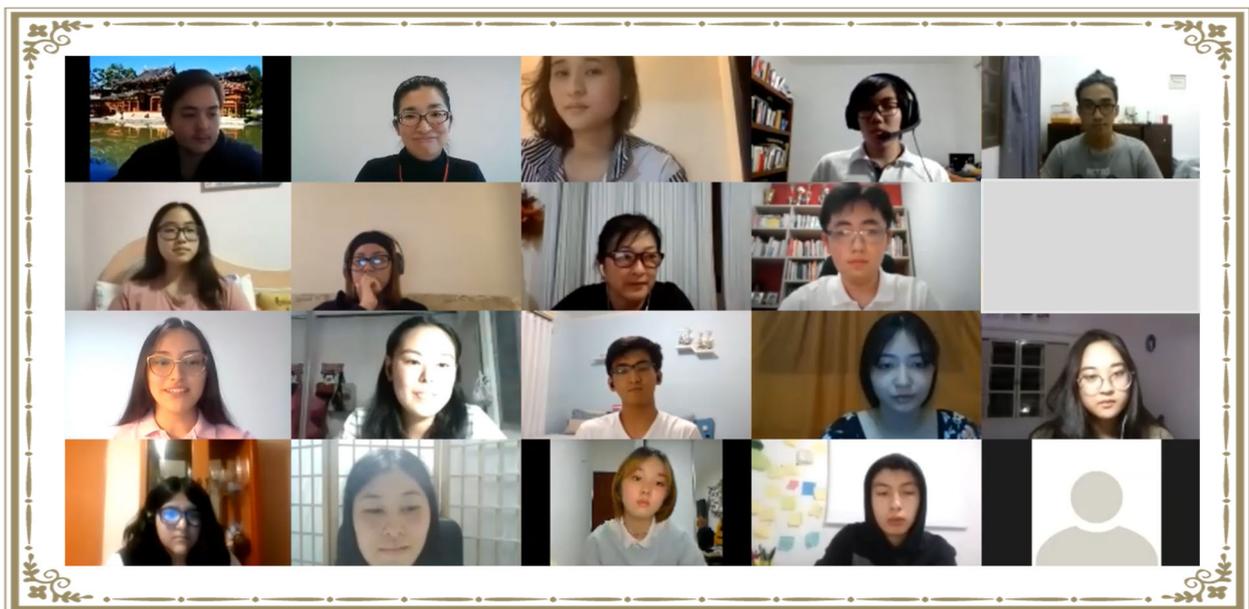
2/2 先輩方の体験談(高校生研修員 OB・OG)



昨年度、本邦研修に参加した高校生研修員 OB・OG6 名から、研修内容や日本の高校体験入学およびホームステイの様子、研修旅行で訪れた広島県の平和記念資料館施設見学や加計町での田舎生活体験について話を聞きました。研修員たちからは、「研修中に出会った中南米の日系人研修員との絆や講義、研修旅行等、話を聞いていて、自分もとても幸せな気持ちになった。」、「本邦研修が再開されたら、自分も中南米の日系人研修員との絆を深めながら研修を受けたい。」、「日系人についての講義や日本人との交流が楽しみだ。」と話していました。

また、研修員が本邦研修で最も印象に残っていることは何かと質問したところ、研修員 OB・OG は「全てがとても素晴らしかったので、ひとつだけ選ぶことはできない。」と答えていました。それを聞いた研修員たちは「自分たちも早く本邦研修を受けたい。」と、強く研修の再開を願う姿が見受けられました。

これを機に、研修員 OB・OG と研修員が SNS を通して毎週ミーティングをするようになり、「新しい日系人の仲間が増えて嬉しい。」と双方より喜びの報告を受けました。

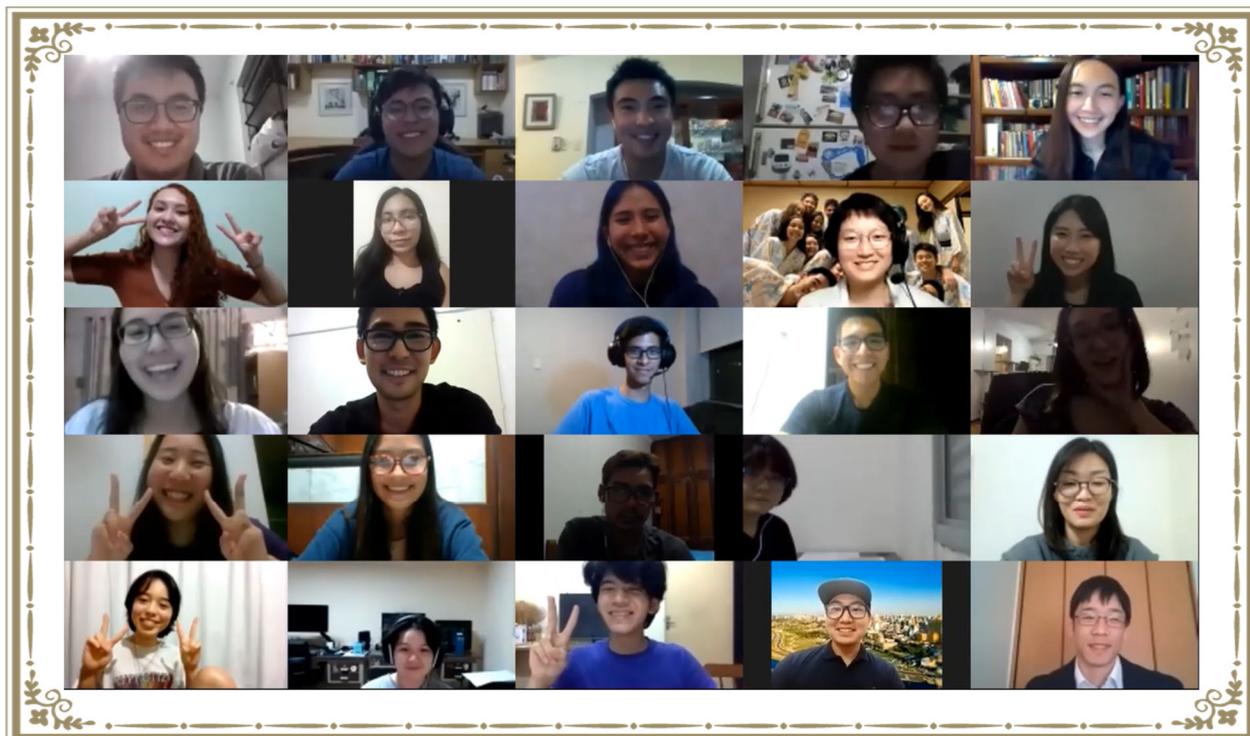


2/5 先輩方の体験談(大学生研修員 OB・OG)



昨年度、本邦研修に参加した研修員 OB・OG6 名から、写真や動画を共有してもらいながら、研修の内容や日本の大学を訪問し、研修を受けたときの様子、研修旅行で訪れた広島県の平和記念資料館施設見学や加計町での田舎生活体験について話を聞きました。また、帰国後の日系社会での活動について、当初、国内にある他地域の日系社会と連携し、青年会の立ち上げを考えていたがコロナ禍で計画を中断していることや、これまでの対面イベントから SNS を利用したオンラインイベントに切り替え、活動先の青年会の仲間と企画、実行をしていること等、研修修了後の研修員 OB・OG の日系社会との関わり方も併せて聞くことができました。

大学生研修員 OB・OG たちからは、本邦研修を通して、自分を見つめ直し、研修員同士が互いに学び合い、日本の大学生をはじめ多くの人と出会う機会があり、とても良い経験となったことが伝えられ、「あなたもぜひ本邦研修を受けるといいですよ。応援しています。」と激励を受け、以前にも増してこの研修への参加意欲が高まったと話していました。



V. 研修員からひとこと

高校生研修員

メキシコ/日本メキシコ学院

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

研修前までは、他国の若い世代の日系人や日本の若者のことを知らなかったなので、彼らと出会うことができ、とても嬉しいです。

Q2. 将来の目標を教えてください。

JICA の研修に参加し、日本で新たな経験を積みたいです。全てに感謝します！

メキシコ/国立高等学校

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

全てのことが有益だったと思うので、どれが一番だったかはわかりません。でも、その中でも3つ、日本人の移住の歴史の講義で日本人初のパスポートを見せてもらったこと、日本の高校生との交流、研修員 OB・OG との交流がとても良かったです。

Q2. 将来の目標を教えてください。

まだはっきりとは決めていませんが、日本語の勉強を続けて、日本へ留学したいです。個人的には健康を維持していきたいです。

ドミニカ共和国/Josbet クリスチャン・カレッジ

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

日系人として資質に恵まれていることを私たちに教えるために講師陣が最善を尽くしてくれたこと。私はその資質を最大限に活かそうと思います。

Q2. 将来の目標を教えてください。

本邦研修に応募し、日本でこの研修を存分に体験したいです。また、日本語を上達させたいです。

ボリビア/コレヒオ・サン・アグスティン

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

直接会えなかったけれども、オンライン上で私と同じ「日系人」と呼ばれる人がいることを知ったことと、アイデンティティはひとつでなくても良いと教わったこと。

Q2. 将来の目標を教えてください。

もともと留学をしたいと考えていましたが、日系人留学生の体験談を聞いて、日本の留学も考えるようになりました。

ボリビア/コレヒオ・ドミンゴ・サビオ

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

この研修で得られるものがたくさんありましたが、一番有益だったのは生涯の友となる人たちとの出会いです。いち早く新型コロナウイルスが根絶され、本邦研修で会えることを願っています。

Q2. 将来の目標を教えてください。

日本または北アメリカやヨーロッパでの留学を検討しています。自分の最善を尽くし、あらゆることに挑戦をし、可能性を広げて自国へ貢献したいです。

ボリビア/コレヒオ・アレクサンダー・ヴォン・フンボルト

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

ひとつは、自分自身を認識できたことです。日系人留学生の話は、「自分の心を変える」プログラムだったと思います。もうひとつは私たちの文化背景にある歴史についてです。日系人が中南米の社会にとって重要な存在だと気付きました。

Q2. 将来の目標を教えてください。

まずは、今の勉強やバレーボールに打ち込み、ボリビアの日系人代表のバレーボール選手になりたいです。

そして、本邦研修でさらに多くのことを学ぶ機会を得たいです。

ペルー/ラ・ウニオン日系校

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

特に有益だったのは、日本人の移民の歴史を学ぶことができたこと、そして他の日系人と交流することができたことです。

Q2. 将来の目標を教えてください。

日本人の移住の歴史を詳しく学び、理解したいです。そして、家族や周りの友人に共有したいです。

ペルー/ラ・ウニオン日系校

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

この研修で出会った人々や学んだこと全てです。特に日本人の移住の歴史については知らなかったのですが、私の中のもうひとつの文化について学ぶことができたことを嬉しく思い、感謝しています。

Q2. 将来の目標を教えてください。

優れたファッションデザイナーになることと、世界中を旅して様々な国の文化を学ぶことです。

ペルー/マリア・レイナ・マリアニスタ校

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

自身を成長させるために大切なことをたくさん学べたことです。パンデミックの状況下で、この研修を通じて他の日系人の研修員と話し合い、考える良い機会となりました。

Q2. 将来の目標を教えてください。

本邦研修に参加することです。そして、日本と自国の日系社会の架け橋となり、自身も成長し続けたいです。

ブラジル/ピラール・ド・スール日本語学校

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

「先輩方の体験談(高校生研修員 OB・OG)」で先輩方と話す機会があったこと。
私も本邦研修を受け、先輩方と同じように様々なことを学び、経験したいです。

Q2. 将来の目標を教えてください。

まだ具体的なことは分かりませんが、大学へ進学し、その後、自分が好きな仕事に就きたいです。

大学生研修員

メキシコ/モンテレイ工業大学

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

自分自身の見方が変わったこと、そして、日系人としての自分が社会のために貢献できることがたくさんあるのだと気づき、誇りに思うようになったことです。

Q2. 将来の目標を教えてください。

日本の機械工学の修士課程を取得し、そこで学んだことを自国の発展のために役立て、自国と日本の架け橋となっていきたいです。

メキシコ/グアダラハラ大学

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

同じ日系人の大学生と交流し、情報交換できたことは、とても有益でした。また、日系人であるメリットを知り、それをどのように将来に活かすかを考えさせられました。

Q2. 将来の目標を教えてください。

日本へ留学したいと考えています。また、日系社会に関わり、何らかの形で還元していきたいです。

メキシコ/ラ・サール大学

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

同じ日系人の大学生と出会い、共に日本や日系人について学ぶことができたこと、そして、日本の学生とオンラインや SNS を通じて友情を深めることができたことです。ここで出会った人たちは日本や中南米について互いに知り、理解し合えたので、今後、国同士の繋がりを深めるのに有益だと思いました。

Q2. 将来の目標を教えてください。

自国の大学を卒業後、日本へ留学し、今回出会った日本の学生たちと直接会って交流したいです。そして、日本とパートナーシップを組む企業で働き、自国と世界を向上させていきたいです。

また、このオンライン移住学習で学んだことを、自国の人たちに共有したいと思います。

パラグアイ/アスンシオンカトリック大学

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

短期間でしたが、このオンライン移住学習で最も有益だったのは、同世代の日系人、日本人の大学生、講師、スタッフとの出会いでした。

また、日系人としての社会での役割を考えることは、私にとって非常に重要なことであり、今後、自国の日系社会で何ができるのかを考え、行動していきたいです。

Q2. 将来の目標を教えてください。

将来の目標は3つ。1つは、自国の大学の論文を完成させることで、日本の「道の駅」を手本とし、自国の観光について考え、作成しています。2つめは、故郷の移住地へ行き、家族と過ごしながらか日本語の勉強を再開し、コミュニティの手伝いをする事です。そして、3つめは、日本でのアルバイト経験を活かし、自身のルーツや日本の歴史・文化を深く学ぶことです。

パラグアイ/アスンシオンカトリック大学

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

正直、受講前はあまり期待していませんでしたが、今日の日本や社会、日系人や日本人の大学生と出会い、友情を育むことができたのは、非常に有益だったと考えています。

Q2. 将来の目標を教えてください。

自国の社会への貢献を考えています。

パラグアイ/アメリカナ大学

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

日系人のアイデンティティについて学び、考えたことです。自国と日本の2つの異なる文化を持ち合わせていても、どちらかひとつだけを選択しなければならないということはないと知り、それがどれほど幸運なことであるかを感じました。

Q2. 将来の目標を教えてください。

いくつかありますが、そのうちのひとつは、日本の大学院で日本の建築について学び、パラグアイの建築に活かしたいです。そのために、今は日本語を上達させたいです。

ポリビア/カトリカ大学

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

日本人の海外移住の歴史や日系人のポテンシャルの講義の他、日系人の研修員との出会いが非常に有益でした。

Q2. 将来の目標を教えてください。

日系人の青年たちにもっと日系社会で活動してもらえるよう、自身のソーシャルメディアのディレクターという立場を活かして、ポリビアの日系社会でSNSを利用して発信していこうと思います。

ボリビア/ヌル大学

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

日系人のポテンシャルと日本人の海外移住の歴史を学べたことが一番有益でした。

Q2. 将来の目標を教えてください。

オンライン移住学習で学んだことを基に、視野を広げ、自身の日系社会をよりよくしていきたいです。

ボリビア/ウディ大学

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

一番有益だったのは、日本の繋がりの大切さを実感し、日系人としてのアイデンティティを失わないことだと再認識できたことだと思います。

Q2. 将来の目標を教えてください。

自分が住んでいる地域に機械工房を開くことです。

ペルー/私立リマ大学

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

研修員 OB・OG とオンライン上で会い、体験談を聞くことができたのが嬉しかったです。私も本邦研修で大学研修を受け、自身の専門分野の学部を見学したり、ホームステイプログラムに参加したりしたいです。

Q2. 将来の目標を教えてください。

自国の大学を卒業後、心理学の研究をするため日本へ留学したいです。そのために日本語を習得したいと思います。

ペルー/ペルー応用科学大学

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

新型コロナウイルスの影響で本邦研修は実現できなくても、オンラインを利用して様々な国や言語の人たちと交流し、ディスカッションやグループワークできたことが非常に良かったです。

Q2. 将来の目標を教えてください。

まずは自国の大学を卒業し、ソフトエンジニアリングまたは Web デザイナーの仕事に就きたいです。また、趣味で日本語を習得したいと思っています。

ペルー/私立リマ大学

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

3つあります。ひとつは、日系人や日系社会について、貴重な学習ができたことです。このプログラムの多くはインターネットや自国の大学では学べないことだったので、非常に満足しています。2つめは、どんなに遠く離れた場所に住んでいても、自分と同じ日系人と出会い、共にオンライン移住学習を受講できたことです。3つめは、自身の成長です。受講前は日系人とは何か、自問自答することはなかったのですが、受講することで他の研修員と共に話し合いながら考察し、視野を広げることができました。

Q2. 将来の目標を教えてください。

留学をし、自身の専門分野の研究をして、自国へ貢献したいです。

ブラジル/サンカルロス連邦大学

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

これまで知らなかったことをたくさん学ぶことができたことです。特に、日本人の海外移住の歴史については、もっと早く知りたかったと思いました。講師陣、同じ日系人の研修員や研修員 OB・OG、日本人の大学生と意見交換したり、ワークしたりする機会をもつことができるとも嬉しかったです。

Q2. 将来の目標を教えてください。

日本企業のインターンシップに合格したので、そこで学びながら、将来は日本で留学、就職をし、日本と自国の架け橋となっていきたいです。

ブラジル/モジダスクルーゼス大学

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

最も好きで、感動したのは、日系人のアイデンティティに関する講義でした。とてもシンプルに見えるテーマでしたが、実はとても重要で、自身の世界観を大きく変える内容でした。今回のオンライン移住学習でさえ、信じられない程、自身を変える内容だったので、本邦研修はもっと自分にとって影響のある内容なのではないかと思います。

Q2. 将来の目標を教えてください。

このオンライン移住学習で学んだこと全てを、日系人はじめ、日系社会に関わる現地の人たちにも伝えたいと思います。ここ数年、自国の若い世代の間で日本文化の継承が薄れてきているのを感じているので、私たちの伝統文化の良さと、日本語を習得する楽しさを伝えていきたいと思います。

ブラジル/マッケンジ大学

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

今年、大学を卒業するにあたり、日本人の移民の歴史や文化について勉強していたのですが、今回のオンライン移住学習の講義は非常に参考になるものであり、自身にとって重要な学びでした。

Q2. 将来の目標を教えてください。

自国の日系社会に貢献すること、そして自国の建築をより良くしていくことです。そのために、日本の木造建築の技術を自国で活かすことができたらと、いつも考えています。そのために、日本の早稲田大学か九州大学へ留学したいと考えています。

ブラジル/サンパウロ大学

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

全体的に、非常に有益だったと思いますが、特に、「日系人のポテンシャル」の講義が良かったです。そして、この研修を受講することで、「私はひとりではない」、「日系人の仲間が大勢いる」と感じさせてくれたので、とても嬉しく思いました。

Q2. 将来の目標を教えてください。

自国の大学を卒業後、日本への留学を目指しています。また、地元や現在住んでいる日系社会の手助けをしたいと思っています。

ブラジル/ロンドニア連邦大学

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

受講前は日本人の移住の歴史についてのプログラムだと思っていましたが、このオンライン移住学習の中で、様々なことを考えさせられました。特に、日系人とは何か、また、日系人として何ができるのかを振り返る時間が、一番、有益でした。

Q2. 将来の目標を教えてください。

20代のうちに日本で仕事をしながら日本文化を学び、祖先が生まれた故郷を訪れたいです。そして、日本で学んだことを活かし、自国の社会経済に寄与したいです。

ブラジル/ソロカバ大学

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

中南米の日系人の大学生や研修員 OB・OG、講師陣と出会い、意見交換すること、そして、そこで学んだことを基に、日系人として日系社会への貢献方法について考えさせられたことがとても有益でした。

Q2. 将来の目標を教えてください。

将来は日本の大学院へ留学したいです。そして良き社会人となり、社会へ貢献していきたいです。

ブラジル/マッケンジ大学

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

このようなパンデミックの中、他国の日系人と出会い、各国の日系人たちとディスカッションし、情報を共有できたことです。近い将来、直接、みんなと交流できることを願っています。

Q2. 将来の目標を教えてください。

大学を卒業後、AIを使った新しい研究を始めたいです。自身の関心のあるテクノロジーを駆使し、社会へ貢献したいです。また、日本語の勉強をし、いつか日本に住みたいと考えています。

ブラジル/ブラジリア大学

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

他の日系人の研修員と交流しながら、自身のアイデンティティや日系人のポテンシャルについて考える機会が与えられたことが、最も有益でした。様々な国から受講し、ディスカッションしたり、プレゼンテーションを行ったりすることで、それぞれの経験や意見、文化を共有することができました。

また、研修員OB・OGや留学生の体験談を聞いて、本邦研修や留学への意欲が増しました。

Q2. 将来の目標を教えてください。

このオンライン移住学習で学んだ大切な価値観を、次世代に伝えていきたいです。また、日本へ行き、日本の文化を学び、祖先の故郷や移住の歴史を調べたいです。

ブラジル/パラナ連邦技術大学

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

全ての講義が有益でした。特に、日系人のアイデンティティやポテンシャルを学んだおかげで、自分自身について深く考えるようになりました。また、留学生や研修員OB・OGの体験談は非常に参考になりましたし、日本の大学生との交流では、様々な国の大学生とグループワークを行うことで、日本だけではなく他の中南米の国についても知ることができて良かったです。

Q2. 将来の目標を教えてください。

具体的には決まっていますが、留学生や研修員OB・OGから話を聞き、日本への留学を考えるきっかけとなりました。

ブラジル/リオデジャネイロ連邦大学

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

中南米に住む日系人の大学生と話げできたことが非常に良かったです。何故なら、私は日系社会から離れたところに住んでいて、「これから日系社会の活動に参加しよう」と思ったときに、今回のパンデミックで同世代の日系人との交流ができなくなってしまったからです。ですから、オンラインで中南米に住む同世代の日系人と繋がりを持てたことは、とても嬉しかったです。

また、日本と他国の文化をもっている同世代の日系人とアイデンティティや日系社会について意見交換や共有できたことが、とても良かったと思います。

Q2. 将来の目標を教えてください。

日系人としての意識を持ちながら、日本文化を継承していきたいです。
また、自分の経験から、ブラジルから日本へ出稼ぎに行っている人たちの助けになればと考えています。

ブラジル/UNICEUB 大学

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

中南米に暮らす日系人の大学生や日本の大学生と繋がりをもてたことは、非常に有益だったと思います。このオンライン移住学習を受講することで、日系人としてのアイデンティティを認識し、日本と自国を繋ぐために何をすべきかを考えることができました。ここで学んだことを、周囲の人たちに共有したいと思います。

Q2. 将来の目標を教えてください。

日本への留学を考えています。また、日本文化や日本語をもっと深く学びたいです。

アルゼンチン/国立技術大学

Q1. このオンライン移住学習で一番有益だったと思うことは何ですか？

このようなパンデミックの状況下で、新たな出会いがあり、他の日系人の研修員と話すことができたことです。そして、日系人のポテンシャルを考えたことにより、自身の視野が開けたと感じています。

Q2. 将来の目標を教えてください。

教育者を目指し、自己を成長させていきたいです。

VI. 総評

1908年、「笠戸丸」と呼ばれる船でブラジルへ渡った後、ブラジルやボリビア、パラグアイ等、中南米各国への移住が広まり、その歴史は100年以上にもなります。移住した日本人は各国や各地域で「日系社会」と呼ばれる日本人のコミュニティを形成し、日本文化の継承と普及を行ってきましたが、現在では中南米の日系社会では世代交代が進み、若い世代が今後の日系社会を担う存在として期待されています。本研修では、次世代の日系社会をリードしていく若い世代の日系人に対し、日本人の海外移住の歴史に関する学習、その他各種研修を通じて自分たちのルーツ、日本の文化、習慣等を学び、日本に対する理解を深めることで、自らの日系人としてのアイデンティティを強化すること、研修の中で自らの考えを発信する機会を持ち、日本で得た知識や研修の成果を基に、日系社会をリードする発信力のある人材を育成することを目的とし、研修を行っています。

例年通りであれば、高校生研修員は1月に、大学生研修員は6月に来日し、移住学習や日本の高校および大学での研修、ホームステイ等の各種研修を通じて、自身のルーツと日本に対する理解を深め、自らの日系人としてのアイデンティティの強化を目指していきますが、今年度は世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響により、オンライン会議システムを利用した研修に切り替えて実施することになりました。

オンライン移住学習では、これまで自国の学校やインターネットでは得ることのできなかった日系人や日系社会に関する講義を受け、研修員同士のディスカッションを通して、日系人としてのアイデンティティやその可能性、日本との繋がりを考察するプログラムを実施しました。研修員の習慣や実体験が自身の日系人としてのアイデンティティを育てていること、日本と自国の2つの良い文化をもち合わせていることが、日系社会や自国への貢献に活かせると知り、日系人であることを強く誇りに思う姿が見受けられました。また、現在、研修員と共に日系社会で活動している非日系(日本にルーツがない人)も自身と同じ日系社会の一員であり、大切な仲間だということを認識し、今後も日本のルーツの有無に関係なく、互いに協力し合いながら日系社会に関わっていくことができるのではないかと考えます。

日本の高校生との交流プログラムでは、同世代の高校生と交流を図りながら日本の文化や習慣を知り、理解を深めるためのプログラムを実施しました。研修員は校長先生の挨拶を聞いたり、大教室に集まる加計高校の生徒を見ながら交流したりすることで、訪問はできなくとも日本の学校生活を感じることができ、文化紹介を通して、研修員の家庭や日系社会の中で、日本の食文化や昔話が大切に受け継がれてきていることへの気づきにも繋がったようです。

日本の大学生との交流プログラムでは、学生と交流を通して互いの国の文化や価値観の中にある共通点を見つけ、研修員のルーツである日本との繋がりを感じながら理解を深めるために日本と中南米の国をテーマにし、グループで発表する機会を設けました。時差や年末年始、言語の壁といった課題がありながらも発表の準備に向けてテーマおよび内容を決め、写真や動画の収集、スクリプトやパワーポイント資料の作成等、各自、担当を決め、他の研修員や学生と進捗状況を確認しながら連携して作業し、プレゼンテーション発表することで、大きな自信に繋がりました。

中南米 5 カ国 10 名の高校生と中南米 6 カ国の大学生 24 名の研修員にとって、オンライン移住学習を受けることにより、自国以外の中南米諸国にも同様の日系社会があること、その中で、日本文化を受け継いでいる仲間の存在がいることを認識できたことは、研修員にとって大きな心の支えとなりました。各講義を通して日本との繋がりを再確認し、日系人としての強みを知った研修員は、今後、日系社会をどのようにリードしていくかを考え、実践するための知識を得られたのではないかと思います。研修後も出会った研修員の仲間とのネットワークを活かし、研修で得た学びを深めながら、日系社会での活動を続け、次世代の日系社会を担う人材になることを期待しています。

2020 年度

「日系社会次世代育成研修（高校生・大学生招へいプログラム）

オンライン移住学習」募集要項

2020 年 8 月



独立行政法人国際協力機構（JICA）

2020 年度「日系社会次世代育成研修（高校生・大学生招へいプログラム）
オンライン移住学習」募集要項

1. 目的

中南米の日系社会では世代交代が進み、2 世、3 世以降が今後の日系社会を担う存在となっています。本研修は今後の日系社会を担う世代に対する本邦での研修を通して日本との関係強化や移住先社会の発展に貢献できるような人物を育成することを目的としています。

例年、研修員を本邦へ招へいし、研修を実施していますが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、オンライン移住学習を実施します。

2. 対象国および各国人数枠

9 カ国 計 60 名(高校生 30 名、大学生 30 名)

	高校生人数枠	大学生人数枠	
		2020 年度仮合格者	仮合格者以外
ドミニカ共和国	1	0	1
メキシコ	2	2	1
コロンビア	1	0	1
ベネズエラ	1	0	1
ブラジル	13	9	2
ペルー	3	2	1
ボリビア	3	3	1
パラグアイ	3	3	1
アルゼンチン	3	1	1
合計	30 名	20 名	10 名

※今年度に来日予定であった 2020 年度大学生招へいプログラムの仮合格者は原則、参加をお願いしますが、何らかの都合により参加ができない場合は、その旨を JICA 事務所にご連絡ください。

3. 実施期間（予定）：2020 年 12 月 18 日(金)～2021 年 2 月 5 日（金） ※日本時間

※日程の詳細は別紙参照

4. 実施概要

別紙を参照ください。なお、高校生と大学生はプログラムの一部を合同で実施します。

5. 応募資格要件

応募者は、次の要件をすべて満たしていなければなりません。

- (1) 海外移住者及び概ね日系3世までの海外移住者の子孫（※）であること。
※日本人移住者の血統を引く者を指します。
※事業対象国に定住していること（主たる生活基盤があること）。
- (2) **プログラム参加時点で**、原則、日本の高校生相当（16歳以上、18歳以下）であること(高校生枠による参加)、または本プログラム対象国の高等教育機関(大学)に所属しており、かつ年齢が18歳以上30歳以下であること(大学生枠による参加)。
- (3) 親権者または保証人の同意が得られること。
※共同親権が法制化されている国においては、全親権者の同意が得られること。
- (4) 日常生活に支障のない日本語能力又は英語能力を有すること。講義を日本語または英語で受講し、かつ議論に参加できるレベルの能力を有すること。
- (5) 移住学習についての理解を深める強い意欲があること。
- (6) 原則、JICA指定の全プログラムに参加できること。
- (7) オンライン移住学習に参加するに当たり、各参加者は自宅で受講することを想定しています。参加に必要な受講機器(PCやスマートフォン)、インターネット環境は参加者各自で準備いただきます。また、受講の際は受講機器(PCやスマートフォン)のカメラを使用します。

なお、グループディスカッション等お互いの画面共有の関係から、PCからの参加を推奨しますが、難しい場合はスマートフォンからの参加も可とします。

6. 応募書類

- (1) JICAが指定する以下の様式を使用して応募してください。

応募用紙…1通（別紙2）

和文、英文のどちらか一つを提出してください。

アルファベットによる氏名：この書類に書かれた氏名の表記にしたがって、修了証書を作成します。

- (2) 所有していれば、以下の書類も応募と同時に提出してください。

※PDF または写真による添付も可能

ア. 日本語能力試験認定書等日本語能力に関する証明書類…写し1通

※公的試験等を受けたことがない場合は提出不要。

イ. TOEIC、TOEFL等英語能力に関する証明書類…写し1通

※公的試験等を受けたことがない場合は提出不要。

(注1) 上記(1)の書類は必ず本人が作成してください。

(注2) 上記(1)、(2)の書類がすべて完全かつ正確に記載されていない場合、またすべての書類が募集締切日（各国によって異なる）までに完全に揃っていない場合は受理されません。

(注3) 提供された個人情報、①合否の判定、②プログラム実施の準備、③事業実績の取りまとめ等の統計資料の作成のみに利用します。

7. 募集期間

JICA 在外事務所への応募書類提出締切日は各在外事務所により決定されるため、各在外事務所の指示に従ってください。メールでの応募も可能とします。

8. 参加の資格取消

参加者が次の事項に該当する場合、JICA はその資格を取り消すことがあります。

- (1) JICA の指示および決定に従わなかったとき
- (2) 本人の故意、重大な過失または怠慢等により、プログラムの参加を継続することが困難と認められるとき
- (3) 本人の都合により参加を中断したとき
- (4) 応募書類の記載事項に虚偽が発見されたとき
- (5) その他 JICA がやむを得ないと認める事由があるとき

9. その他の留意事項

- (1) 応募者は、事業対象国の国籍を有すること（あるいは日本の国籍を有すること）が望ましいです。
- (2) 合格者は肖像権の承諾書を提出してください。
- (3) 本オンライン移住学習への参加については、来年度以降の来日研修への参加を保証するものではなく、来日研修については改めて選考を実施する予定です。

以上

別紙1：「日系社会次世代育成研修（高校生・大学生招へいプログラム）オンライン移住学習」実施概要

別紙2：「日系社会次世代育成研修（高校生・大学生招へいプログラム）オンライン移住学習」応募書類様式

「日系社会次世代育成研修（高校生・大学生招へいプログラム） オンライン移住学習」 応募用紙

20 年 月 日現在

写真貼付
4 cm × 3 cm
裏面に氏名・国名
を記入
(写真はデータ貼付
だけでも可)

ふりがな		男 ・ 女
氏 名	姓 名	国 籍
氏名アルファベット (旅券またはID記載のとおり)		※日本国籍：有/無
生 年 月 日	年 月 日 (満 歳)	
出 生 地	(日系 世)	

アルファベットは旅券（またはIDカード）記載のとおり

保護者氏名	(続柄：)				
日本における父母 (祖父母)の出身県	が(続柄) 出身				
在学中の教育機関名 (学年)	学年				
現 住 所 (現地語で記入)	TEL :	Eメール :			
	州 (県)			市 / 郡	
日 本 語 能 力	A : よくできる B : できる C : 少しできる D : できない				
	取得資格 :				
英 語 能 力	A : よくできる B : できる C : 少しできる D : できない				
	取得資格 :				
訪 日 経 験	有 / 無	年 月 日 ~	年 月 日	目的 :	
※有の場合、訪日目的、 また奨学金等受給の場合は その名前も明記のこと。		年 月 日 ~	年 月 日	目的 :	
		年 月 日 ~	年 月 日	目的 :	
親・兄弟・姉妹の 本邦研修経験の有無	有 / 無	有の場合 が 年度 研修を受講			
家 族 状 況	氏 名	続 柄	年 齢	職業および勤務先・学校名	同居・別居
					同・別

オンライン移住学習に応募した理由、またオンライン移住学習を通してどのようなことを学びたいかを明確に記載してください。

上記個人情報は、①選考の判定、②研修受入先に提出する名簿の作成、③応募から研修終了後までの各種連絡、④事業実績の取りまとめ等統計資料の作成に利用します。